



渡丸さんが旭日単光章を受章

7/9

渡丸耕一さんは、旧水上町議会議員として約16年にわたり奉職されました。その間、水上町議会副議長、水上町議会民生福祉常任委員会委員長などを歴任され、町民福祉の向上、産業基盤の確立などに尽力し、地方自治の発展に多大なる貢献をされました。こうした多年にわたる功績が認められ、旭日単光章が授与され、阿部町長から伝達されました。



▲今回受章された渡丸耕一さん



株式会社BMZが町へ寄附

8/7

インソールなどの製造販売を行う株式会社BMZ（山中保取締役社長）より、アウトレットセールの売り上げから災害対策の5万円を含む合計15万円を寄附していただきました。今回のアウトレットセールでは、足の無料測定や足の握力測定、ボディケア店舗による施術、太鼓の演奏、キッチンカー出店など多彩なイベントが同時に開催され、多くの方が来場しました。



▲山中保取締役社長（左）、阿部町長（右）



心に響く作品が集う みなかみ町俳句短歌大会表彰式が開催

6/21

教育委員会生涯学習課では、第7回みなかみ町俳句短歌大会を開催し、俳句は32人155句、短歌は51人236首の投稿がありました。表彰式は6月21日にカルチャーセンターで行われ、歌人で若山牧水みなかみ紀行短歌大会選者の小島なお先生からは「短歌の中の身体」をテーマにご講話いただきました。



▲表彰式の様子



▲歌人・小島なお先生による講話

◆俳句の部

最優秀賞（一句）

慎ましく暮らせど今宵初鯉

阿部 伊亨

○優秀賞（二句）

薫風や晴耕雨読大寿まで
りくりゆうの和服姿や春の園石坂 北雲
澁谷 典子

◆短歌の部

最優秀賞（一首）

うす紅の赤子のこぶし開くごと
今朝ひとひらの牡丹ほどける

中島 早苗

○優秀賞（二首）

木々いまだ芽吹かぬ山の傾斜地に
ひそと咲きをりかたくりの花
罪も無き子等の泣き顔見るテレビ
世界平和を今日も祈りぬ小林 博子
番場 正夫



親子で挑戦！ラフティング体験教室を開催

7/24

「親子ラフティング体験教室」は、みなかみ町子ども会育成団体連絡協議会の事業として、ラフティング組合各社の協力を得て行われています。

諏訪峡をボートで下ったり川遊びをしたりと、町の豊かな自然を体験しながら、親子で楽しい時間を過ごすことができました。



▲パドルを手に出発準備



▲水の上では自然と笑顔に



▲中間地点で川遊び



▲みんなで決めポーズ



▲安全説明を真剣に聞く参加者



▲清流の中を息を合わせて進む



師区にエアコンなどの備品を整備

7/31

(一財)自治総合センターでは、宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源としたコミュニティ助成事業を実施しています。この事業は、宝くじの普及広報を行うこと、コミュニティの健全な発展を図ることを目的に自治会などへの助成を行っているものです。

令和8年度の助成事業では、師区が師公民館にエアコンやパソコンなどの整備を行いました。



▲整備されたエアコン



小仁田区にエアコンを設置

7/8

(公財)群馬県市町村振興協会では、宝くじの収益による社会貢献広報事業として魅力あるコミュニティ助成事業を行っています。地域コミュニティ活動に必要な設備などの整備に対し助成する事業で、地域コミュニティ活動の充実・強化を図り、地域社会の健全な発展・住民福祉の向上を目指すものです。今回は小仁田区にエアコンを設置しました。



▲整備されたエアコン



写真で見る



まちの話題

= TOWN TOPICS =



通算23回目の奄美市青少年交流事業を実施

7/30～8/3

「奄美市とみなかみ町の教育・経済交流に関する協定書」締結後、はじめての交流事業が実施されました。町内小学校の5・6年生17人が参加し、夏の奄美大島を体験しました。パートナーの家庭にホームステイして交流を深め、日中はマリンスポーツを楽しみました。

2月には、奄美市のこどもたちがみなかみ町を訪れ、自然や文化、生活環境の違いを体験します。



▲磯場で生き物探し



▲仲よくフローティングマットに乗って



▲土浜海岸の海と空をバックに



▲爽快！バナナボート

▲奄美の郷土料理「けいはん鶏飯」を堪能

▲縄文時代の食事をゲームで楽しく学ぶ



太田市青少年交流事業「フレンドシップ2026」開催！

7/22～24

7月22日から24日までの3日間、太田市青少年交流事業「フレンドシップ2026」がみなかみ町で開催され、「未来のリーダーになろう」をコンセプトに、太田市内の小学5年生から中学3年生までの児童・生徒30人が参加しました。

参加者は川遊びや初めてのカヌー体験に挑戦し、パドルを操る楽しさに歓声をあげて盛り上がりました。また、たくみの里ではものづくり体験を通して地域の文化に触れ、さまざまな体験を楽しみました。

自然の中で過ごした3日間は、みなかみ町の魅力を存分に感じるとともにこどもたちにとって新たな発見や挑戦、仲間との交流を通して友情を育む、かけがえのない機会となりました。



▲スタッフに教わりながら順番に出発



▲笑顔でカヌー体験を楽しむこどもたち



▲中央公民館にて記念撮影



みなかみの夏、各地で賑やかに夏祭りを開催

人々の無病息災や地域の安寧を願う夏祭りの様子を、一部ご紹介します。時代や人口の変化に伴い人と人との関わり方が変わる中でも、世代を超えて一堂に集う祭りは、地域の絆を深め、支え合う心を再確認する大切な機会となっています。

月夜野祇園祭 7/25

月夜野会館から元気よく出発したこども神輿に続き、月夜野神社神輿の力強い掛け声が町中に響き渡りました。また、華やかに飾られた「まんど」の上では地域のこどもたちが太鼓を打ち鳴らし、熱気あふれる夏音が地域全体を包みしました。



力強い月夜野神社神輿



まんどが華やかに夜を彩る



元気なこどもたちの声が響く

小仁田祭り和小日向祭り 7/23

それぞれの地区から動き出した神輿が、諏訪峡大橋の上で橋を揺らすほど激しくもみ合いました。活気あふれる担ぎ手はもちろん、祭りを陰で支える人や歓声を送るこどもからお年寄りまで、地域全体が一体となる世代を超えた交流の場となりました。



小仁田の神輿



小日向の神輿



諏訪峡大橋でのもみ合い

入恋夏まつり 7/26

遊神館前の特設広場で開催され、多くの来場者で賑わいました。阿波踊りや三国太鼓、フラダンスや芸人ライブ、大抽選会など多彩なステージが会場を盛り上げたほか、夕暮れには華やかな電飾で彩られた神輿が威勢良く練り歩き、夏の夜を美しく照らしました。



こどもたちがたくさん参加し、大盛り上がり



威勢のよい神輿に観客も盛り上がる



阿波踊りが神輿を先導する



まちの話題

= TOWN TOPICS =



世界に発信!みなかみの自然との共生 グローバルネイチャーポジティブサミット2026へ参加

7/14～15

7月14日から15日までの2日間、熊本市で国際会議「グローバルネイチャーポジティブサミット2026」が開催され、世界27カ国から約2,700人が参加しました。サミットでは、生物多様性の回復を目指す「ネイチャーポジティブ(自然再興)」に向けた議論が行われました。

公式サイドイベントでは、谷川岳エコツーリズム推進協議会の菊池奈々恵さんが登壇し、みなかみユネスコエコパークや当町のネイチャーポジティブの取り組みを国内外へ広く発信しました。



▲会場周辺に飾られたフラッグ



▲町の取り組みを発信する菊池奈々恵さん



▲サミットの様子

サミットで採択された「熊本宣言」では、2030年までに自然の損失を食い止め回復へと転じることが盛り込まれ、自然を守る活動は今や、世界中で動き出しています。当町が誇る豊かな「自然資本」の価値は、多くの参加者から高い注目を集めました。

町では、この貴重な経験をこれからの地域づくりに活かし、みなかみの豊かな自然を次世代へ大切に繋いでいきます。

今こそあらためて

みなかみユネスコエコパーク について語ろう Vol.4

木に触れ、森を感じる
～たくみの里から発信するユネスコエコパーク～



Q「森のおもちゃの家」はどんな場所？

A 町内産の木と触れ合いながら、みなかみの自然を学べる拠点です。実は、町内の赤ちゃんへ贈る誕生祝い品のカスタネットの名入れや町内産材の材料調達もここでしており、自然を生かしながら町内外多くの方へユネスコエコパークの理念を届けています。

Q木工体験を通して何を伝えているの？

A 赤谷の森の間伐材などで作るカスタネットや木の実や枝葉を使った体験を通じて、五感で木に触れるおもちゃを入口に、みなかみの森の豊かさやその森の生物多様性などを学び、ひろめる活動を行っています。

Qたくみの里からユネスコエコパークを発信する意義とは？

A たくみの里は、町内外の多くの人々が訪れる拠点です。体験を通して「みなかみ町の自然の豊かさ」や「共生の取組」を伝えることで、関係人口を増やし、町民には地域の誇りを再確認してもらうことで、豊かな自然を守るきっかけづくりになればと思っています。

ユネスコエコパークをめぐる主な9月のうごき

- 9月1日 谷川岳登山道整備プロジェクト(2回目)
- 9月12日・13日 自伐型林業研修(1回目)
- 9月14日 みなかみBR科学委員会
(生態系の調査・監視、保全計画の策定や科学的助言など)
- 9月17日 みなかみ中学校 谷川岳エコツーリズム環境学習
- 9月26日・27日 おもちゃ学芸員養成講座(第一期)
- 9月28日 藤原小学校 谷川岳エコツーリズム環境学習



地域おこし協力隊の活動

NPO 法人水上自然遊楽 白石 安奈 さん

はじめまして。地域おこし協力隊として、今年度開所したこどもの居場所「みなくる」の運営に携わっています。「みなくる」では、支援を必要とする子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを大切にしています。日々の見守りや体験活動の実施を通して、一人ひとりに寄り添うことを心がけています。

子どもたちの成長や笑顔に触れられることが、私にとって何よりの励みです。また、関係機関や地域のみなさんと連携しながら、安心して過ごせる環境づくりを進めています。子どもたちが「ここなら安心できる」と感じられる場所であることはもちろん、保護者のみなさんにとっても安心して相談できる居場所でありたいと考えています。

これからも地域のみなさんとのつながりを大切にしながら、「みなくる」が安心できる居場所として地域に根付いていけるよう、日々の活動に取り組んでいきたいと思っています。



▲こどもの居場所「みなくる」の外観(旧水上児童館)



▲縁日ごっこでスーパーボールすくいを楽しむ様子

まちづくり協議会だより 第85号

問 まちづくり協議会事務局(企画課)

☎ 0278(25)5030

ふるさとの魅力を再発見しませんか？

私たち、みなかみ町まちづくり協議会月夜野支部では、地域のみなさんに町の魅力を改めて感じていただくため、歴史ある建造物や地域の地理・文化を学ぶ機会、子どもから大人まで世代を超えて交流できるイベントなど、さまざまな事業を企画しています。

普段何気なく目にしている風景や建物にも、先人たちが築き、守り、受け継いできた物語があります。地域について知ることは、この町をもっと好きになる第一歩です。そして、子どもたちが自分の生まれ育った町に誇りを持ち、その魅力を次の世代へ伝えていくことが、これからのまちづくりにつながると考えています。

町民のみなさんの参加や交流が、地域をより元気にする大きな力となります。ぜひご家族やご友人と一緒に、月夜野支部の事業へお気軽にご参加ください。みなさんとともに、ふるさとの魅力を再発見できることを楽しみにしています。

みなかみ町まちづくり協議会月夜野支部
岡村 竜輝



▲今年度実施した土合駅見学会の様子



一人ひとりの取り組みが、みなかみの未来を動かす

第4期 みなかみ町 SDGs パートナー募集

募集期間

2026年

9/1~10/31

TUE

SAT

対象

町内において、SDGsの普及啓発及び目標達成に向けた活動に取り組んでいる、または取り組む意欲がある企業・団体・個人事業主

申込

右記二次元コード先の詳細をご確認の上、ご応募ください。



SDGsパートナー制度

「地域のためにできることを考えたい」「同じ想いの仲間とつながりたい」

ーあなたの“やってみたい”を、みなかみの仲間と一緒に形にしてみませんかー

町では、SDGs（持続可能な開発目標）の普及と推進に向けて「みなかみ町SDGsパートナー」制度を設け、企業・団体の取組紹介や、パートナー同士の交流・連携を進めています。農園、飲食店、製造業、観光、福祉、教育など、多彩な事業者が参加し、異業種のつながりから新しいアイデアや協働が生まれています。

01

交流・連携



他パートナーとの交流や連携を深める機会を提供します。

02

研修会の開催



SDGsに関する知識や実践方法を学べる研修会を開催し、取組の充実にサポートします。

03

オリジナル登録証の交付



登録された企業・団体・個人事業主の皆様には、SDGsパートナーとして、町産木材を使用したオリジナル登録証を交付します。



お問い合わせ
みなかみ町 企画課 地域創生係
☎ 0278-25-5032